

県立産業技術専門校 一般選考試験問題

国語

受験科

科

受験番号

番

一 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

我々がペンをとって何かを書くということは、言葉を①開拓していくということと同じ意味をもつ。この開拓によって自己というものが形成されていくのである。言葉の不自由な性質そのものが言葉を開拓する原動力になるのだ。こうした性格が逆に我々を幾たびも考えさせ、迷わせ、あるいは邂逅をうながすといってもいい。

①言葉というものに翻弄される自分自身を見出すということが、読書日記をつける一つの利益なのだ。さまざまな言葉に翻弄されながら、そしてその極限に見出すものは何かといえば、あらゆる種類の言葉を組み合わせてもなお表現することのできない「沈黙」というものだ。これはだれでも日常経験すること、たとえばある本を読んで非常に感動したとき、あるいは思い感うたとき、どんな現象が起こるか。まず②言葉を失っている自分自身を見出すだろう。心の中であれこれと思いついてみるが、さて口に出そうとしたり、自分でペンをとって表そうとすると、どう表現していいかわからなくなることがある。たちまち言葉に窮して沈黙せざるをえなくなる。

真の感動は必ずこういう現象を引き起こすもので、ここに生ずる沈黙状態を私は重視したいのだ。なぜならいま述べたような意味で言葉を失うということは、反面からいうと心の充実を意味するからである。言おうと思っても容易に表現しきれない、③そこに人間の心に真実が芽生える。しかもそういう真実ほど人に告げたい、あるいは表現してみたいという欲望を起こさせる。こうした苦しみ、つまり言葉の障害と格闘し、開拓し、この苦闘の中に人間の精神は形成されるのである。

自分の言葉をもつということは至難のことだ。我々は自分の言葉だと称しながら、いかにしなれば他人の言葉を使っているか。有り合わせの言葉を用いたり、世間一般の流行語を無批判に使っているが、いうまでもなくそれは精神の死である。自分の言葉をもつということは、自分が生まれることだ。むろん④そこには固有の体験と、あわせてその体験への正直な⑤思索がなければならぬ。そうして発した自分の言葉は、その人の生命の曙だといつてよい。「生命は力なり。力は声なり。声は言葉なり。新しき言葉はすなはち新しき⑥生涯なり。」とは若き⑤島崎藤村の詩集の序文の一節だが、新しい言葉、自分で苦闘して考えぬいた言葉は、その人の生命をひらくのだ。

「亀井勝一郎『読書論』」

(1) 線部⑦～⑩の漢字の読みを書きなさい。

㊦ () () () () () () () ()

(2) にあてはまることばとして最も適当なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア また イ しかし ウ つまり エ たとえば

(3) 線部①「言葉というものに翻弄される自分自身を見出すということが、読書日記をつける一つの利益なのだ」とあるが、言葉というものに翻弄されるのが利益だといえるのはなぜか。最も適当なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 自分でペンをとって表そうとすると、どう表現していいかわからなくなるから
イ 言葉を開拓していくことによって、自己というものが形成されていくから
ウ 真の感動を書き留めておき、将来に役立たせるため
エ 自分の知識欲を高め、文章を書くことによって学力が向上するから

(4) 線部②「言葉を失っている」とあるが、これはいいかえるとどのようなことを意味すると筆者は述べているのですか。文章から四字で書きなさい。

(5) 線部③「そこに人間の心の真実が芽生える」とあるが、心の真実は、どんなとき芽生えるのですか。次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 自分でペンをとって表そうとしたとき
イ 心の中であれこれ思いめぐらしているとき
ウ 真に感動して沈黙したとき
エ 本を読んで心が充実したとき

(6) 線部④「そこ」が指す内容を文中から十三字で書き抜きなさい。

(7) この文章の論の進め方として最も適当なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 初めに事例を述べ、次にそれを一般化しながら論を深め、終わりの部分で引用を用いるなどして結論を述べて締めくくっている。
イ 初めに序論を述べ、次に引用文を用いるなどしながら論を深め、終わりの部分で結論を述べて締めくくっている。
ウ 初めに結論を述べ、次にそう結論付けた理由を明らかにしながら論を深め、終わりの部分で引用文を用いるなどして再び結論を述べて締めくくっている。
エ 初めに話題を述べ、次にその話題を転換させながら論を深め、終わりの部分で引用文を用いるなどして結論を述べて締めくくっている。

(8) この文章で筆者が最も強く主張しているのは何か。最も適当なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 沈黙状態から言葉を生み出す人もいるが、有り合わせの言葉は無批判に使っている人も多く存在する。

イ 読書日記をつけることは心の充実をもたらすが、一方では人を沈黙状態に追いやるという現象を生じさせる。

ウ 真の感動は、固有の体験を必要とするが、言葉では容易に表現できないので、沈黙状態を作り出すものである。

エ 言葉の不自由な性質は人を沈黙状態に追いやるが、それと格闘し、言葉を開拓していく中で、人間の精神は形成される。

(9) ———線部⑤島崎藤村の作品を次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 友情

イ 破戒

ウ 舞姫

エ 雪国

二 次の文法の問題に答えなさい。

(1) 次の各文の——線部の意味をあとのア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

① 今、宿題が終わった|ところだ。

② そう|いう話も出た|ね。

③ さびた|包丁を研ぐ。

④ これは君から借りた|本だった|ね。

ア 過去

イ 完了

ウ 存続

エ 確認

(2) 次の文の——線部の語と文法上同じ性質のものをあとのア～エから選び、記号で答えなさい。

① 取れるものなら取ってみると言わ|んばかり|に、ふんぞりかえった。

ア 一週間|ばかり|旅をするつもりだ。

イ 彼は|今来|たばかり|だ。

ウ 油断|したばかり|に失敗した。

エ 泣かん|ばかり|に訴える。

② 日没までに家に戻る。

- ア そのうえ雪まで降り出した。
イ そんな話は断るまでだ。
ウ ここで六時まで待とう。
エ この頃はサラリーマンまで漫画ファンだ。

(3) 次の各文の——線部の終助詞の働きをあとのア～エから選び、それぞれ記号で答えなさい。

- ① 一生懸命やれば大丈夫よ。
② 一緒に行こうか。
③ 何をしたの。
④ 皆ですると楽しいね。

- ア 質問 イ 強調 ウ 感動 エ 勧誘

三 次の問題に答えなさい。

(1) 次の語の類義語をあとのア～エから一つ選び、それぞれ記号で答えなさい。

- ① 事故 ア 故事 イ 支障 ウ 公害 エ 処置

- ② 反目 ア 不和 イ 反対 ウ 細目 エ 目算

- ③ 意図 ア 意味 イ 地図 ウ 根性 エ 魂胆

(2) 次の熟語と組み合わせられて四字熟語をつくるものをあとのア～エから選び、それぞれ記号で答えなさい。

- ① 清廉
② 荒唐
③ 縦横
④ 栄枯

- ア 潔白 イ 無尽 ウ 盛衰 エ 無稽

(3) 次の言葉の意味として最も適当なものを次のア～エから選び、それぞれ記号で答えなさい。

① 息をのむ

ア 深く息を吸い込む

イ はっと驚く

ウ 息もせず、じっと立つ

エ ほっと嘆息する。

② 時宜になかった

ア その潮時としてふさわしい

イ その時代の流行をとりいれた

ウ それぞれの個性を尊重した

エ その時点での希望がなかった

四 次の——線部の漢字の読みをひらがなで書きなさい。またひらがなを漢字に直しなさい。

(1) 遠方に赴任する。

(2) 悔恨の情にさいなまれる。

(3) 公共物を秘匿する。

(4) 面目躍如の活躍。

(5) 屈辱を晴らす。

(6) 秋の味覚を満喫する。

(7) 容赦なく非難を浴びせる。

(8) 部下の動向を掌握する。

(9) 新しい仕事に携わる。

(10) 支払いが滞る。

(11) 次回の委員会にはかる。

(12) 山頂は雪におおわれる。

(13) 反旗をかかげる。

(14) 問屋におろしねを聞く。

- (15) なごりを惜しむ。
- (16) えんかく地から訪れる。
- (17) 運動会の写真をとる。
- (18) 山で山菜をとる。
- (19) 上司のしよだくをとる。
- (20) ほうこうが漂う。